

なら安心みちネットプラン～暮らしをつなぐ道路防災～ 概 要 版

1. 現状と課題

1) 道路災害等の発生状況

過去5年間ににおける落石、崩土を原因とした通行規制は約120件発生し、1回あたりの通行規制時間は平均約470時間であり、特に道路のネットワークが粗い中山間地域では地域住民の生活・経済活動及び観光交通への影響は多大。

2) 要対策箇所と道路防災対策の現状と課題

【現状】 要対策箇所は1,705箇所あり対策完了箇所は約15%
対策完了には膨大な費用と時間が必要

【課題】 効率的な投資による「選択と集中」が必要

3) 発災後の対応の課題

ドライバー等への情報発信の遅延、情報内容の不備
隣接県との情報の共有化、迂回路開設の迅速化

2. 対策の基本的な考え方

前兆現象の早期把握と発災後の地域生活・経済への影響を出来るだけ少なくすることに重点をおき減災対策に取り組むとともに、道路ネットワークを遮断させないような観点をより重視して、危険箇所の防災対策にも「選択と集中」で取り組む。

3. 具体的な取り組み

1) 前兆現象の早期把握と初期対応の充実

①効率的・効果的な前兆現象の発見体制の構築
・関係自治体との連携強化

②前兆現象箇所等の早期特定のための環境整備
・連絡先看板や距離標の設置

③道路利用者や地域住民に規制情報等をすみやかに周知
・携帯端末電話を利用した個別登録者へ配信するシステムの構築

④事前に迂回路計画の策定
・事前に設定した迂回路については、県が定期的な点検・簡易な補修、修繕を行い地域交通の確保のため発災後原則3日間で開設

2) 防災体制の充実

①危険箇所の早期発見に向けた科学的知見の充実と災害履歴の傾向分析

- ・ 詳細平面図(レーザープロファイ)の整備を行い、地すべり地形等を把握
災害履歴、発災前後の雨量等のデータ蓄積し優先箇所選定に活用

②県境部での連絡体制の充実

- ・ 道路防災連絡協議会を毎年開催し、情報連絡体制等を確認

③関係機関との連携強化

- ・ 関係機関との通行止時の案内・誘導訓練や勉強会の定期的な実施

④被災状況の情報伝達体制の充実

- ・ 衛星携帯電話等により情報通信可能エリアを広げ、初期対応の迅速化

3) 「選択と集中」によるハード対策の実施

＜道路ネットワークの遮断回避を重視した重点整備＞

崩落の発生箇所や兆候がある箇所を引き続き第一優先で緊急対策を実施するとともに、道路ネットワークの遮断回避を重視し計画的な防災対策に重点的に取り組む。崩落時に道路ネットワークが完全に遮断されないように、迂回路の無い広域幹線道路*等の対策や通行止めにより孤立する集落の解消を重点的に取り組む。

※県土を縦横断する広域幹線道路・緊急輸送道路

4) 最先端技術の活用

①情報収集に関する活用

- ・ 最新のレーザー技術を導入した測量

②情報提供に関する活用

- ・ I T 技術を活用し、情報伝達の迅速化

③初期活動に関する活用

- ・ 衛星携帯電話等を活用し初期対応の充実

5) 技術力向上に向けた取り組みの実施

①中山間地域の土木事務所間の相互応援体制の構築

②崩土〈災害〉発生箇所を題材とした検討会の開催

③崩土発生状況、対応状況の記録の保存と活用